



2022年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月14日

上場会社名 株式会社スプリックス 上場取引所 東
 コード番号 7030 URL https://sprix.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 常石 博之
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部 長 (氏名) 設楽 征史 TEL 03(6912)7058
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年9月期第1四半期の連結業績（2021年10月1日～2021年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第1四半期	7,537	133.1	1,269	70.8	1,272	71.3	811	61.4
2021年9月期第1四半期	3,233	-	743	-	742	-	503	-

(注) 包括利益 2022年9月期第1四半期 807百万円 (62.4%) 2021年9月期第1四半期 497百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第1四半期	47.38	45.88
2021年9月期第1四半期	29.21	28.33

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年9月期第1四半期	19,448	9,285	47.6
2021年9月期	19,277	8,864	45.9

(参考) 自己資本 2022年9月期第1四半期 9,264百万円 2021年9月期 8,846百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期	-	15.00	-	21.00	36.00
2022年9月期	-	-	-	-	-
2022年9月期（予想）	-	19.00	-	19.00	38.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年9月期の連結業績予想（2021年10月1日～2022年9月30日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	29,546	14.1	2,699	10.8	2,706	11.2	1,755	19.6	102.45

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年9月期1Q	17,482,050株	2021年9月期	17,473,950株
② 期末自己株式数	2022年9月期1Q	345,285株	2021年9月期	345,245株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年9月期1Q	17,134,359株	2021年9月期1Q	17,221,972株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位をもって記載することに変更いたしました。なお、前連結会計年度及び前第1四半期連結累計期間についても百万円単位に組替え表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当第1四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が徐々に緩和されるなか、引き続き各種政策の効果や海外経済の動向、ワクチン接種状況などを注視する必要がありますが、一部で持ち直しの動きがみられます。

当社グループの属する教育サービス業界におきましては、少子化・採用難・地域格差等が続くなかで、様々な対応策を講じることが必要になってきております。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、あらゆる産業でアナログからデジタルへの転換、サービスの在り方が見直されるなか、IT技術の活用等による新たな教育・指導形態の必要性も一層高まってきております。

このような状況のもと、当社グループでは前第1四半期連結会計期間末より株式会社湘南ゼミナールがグループに加わり、学習塾サービスにおいては、個別指導の「森塾」、「自立学習RED」、「そら塾」に加え、株式会社湘南ゼミナールの運営する「森塾」、集団指導の「湘南ゼミナール」、大学受験指導の「河合塾マナビス」も合わせ、これまで以上に充実したサービスを展開しております。セグメント情報は次のとおりです。

「森塾」（個別指導塾）におきましては、当第1四半期連結会計期間末において175教室（前年同期比18教室増）展開しておりますが、その内訳は、株式会社スプリックス運営が130教室（前年同期比15教室増）、株式会社湘南ゼミナール運営が45教室（前年同期比3教室増）であります。

新型コロナウイルス感染症の影響のもと、引き続き生徒・保護者様及び従業員の安心安全を最優先としつつ、高水準の学習指導を継続したことにより、復調した前期夏期講習の流れを引き継ぎ、低い退塾率と順調な集客を実現し、好調な推移となりました。

これらの結果、当第1四半期連結会計期間末における「森塾」在籍生徒数は42,279人と株式会社湘南ゼミナールの運営する「森塾」と合わせ、前年同期比2,441人増となりました。その内訳は、株式会社スプリックス運営が32,999人（前年同期比1,826人増）、株式会社湘南ゼミナール運営が9,280人（前年同期比615人増）であります。

「湘南ゼミナール」は、小中学生をメインターゲットとした集団指導形式の学習塾であり、当第1四半期連結会計期間末において179教室（前年同期比2教室増）を展開しております。

「河合塾マナビス」は、講義映像とチューターを用いた大学受験指導を行う学習塾であり、当第1四半期連結会計期間末において株式会社湘南ゼミナールがフランチャイジーとして47教室（前年同期比増減なし）を展開しております。

「その他」に含まれる「自立学習RED」は、教育ITを利用した学習塾であり、当第1四半期連結会計期間末において直営5教室（前期末比変動なし）、FC168教室（前年同期比26教室増）を展開しております。

当社グループは、当第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しており、当第1四半期連結累計期間における主な学習塾ブランドごとの売上高、セグメント利益、教室数及び生徒数は、以下のとおりであります。詳細は、（セグメント情報等）の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

	森塾	スプリックス		湘南ゼミナール	河合塾マナビス
		運営	湘南ゼミナール 運営		
売上高（注1）	3,785百万円	2,986百万円	799百万円	2,466百万円	823百万円
セグメント利益（注1、2）	1,233百万円	982百万円	250百万円	564百万円	128百万円
EBITDA（注3）	1,283百万円	1,002百万円	281百万円	647百万円	170百万円
2021年12月末現在教室数	175教室	130教室	45教室	179教室	47教室
2021年12月末現在生徒数	42,279人	32,999人	9,280人	21,912人	5,672人

注1）売上高は外部顧客への売上高、及びセグメント利益は、セグメント間取引の相殺前の数値であります。

注2）セグメント利益は、のれんを除く無形固定資産の償却費を反映しております。

注3）EBITDAは、営業利益+支払利息+減価償却費であります。

また、教育関連サービスにおきましては、個別指導用教材「フォレストシリーズ」、ICTを活用した映像教材「楽しく学べるシリーズ」、塾講師募集webサイト「塾講師JAPAN」などの既存事業がいずれも好調だったことに加え、株式会社サイバーエージェントグループと協業中の「キュレオプログラミング教室」「プログラミング能力検定」などの新規事業も順調に拡大しております。さらに、AIタブレットで基礎学力を養成する「フォレスト学習道場」や、スプリックス基礎学力研究所による国際基礎学力検定「TOFAS」の提供を開始するなど、学習塾サービスとの相乗効果を最大限に発揮できる取組みも積極的に進めております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は7,537百万円（前年同期比133.1%増）、営業利益は1,269百万円（前年同期比70.8%増）、経常利益は1,272百万円（前年同期比71.3%増）、親会社株主に帰属する当四半期純利益は811百万円（前年同期比61.4%増）、EBITDA（＝営業利益+支払利息+のれん償却+減価償却費）は1,547百万円（前年同期比99.8%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、19,448百万円（前連結会計年度末比171百万円増）となりました。主な要因は、現金及び預金が203百万円減少したものの、未収入金が378百万円増加したことなどによるものであります。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における負債は、10,163百万円（前連結会計年度末比248百万円減）となりました。主な要因は、前受金が293百万円減少したことなどによるものであります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、9,285百万円（前連結会計年度末比420百万円増）となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益811百万円による増加の一方で、配当金の支払359百万円による減少などによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2021年11月12日の「2021年9月期 決算短信」で公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,163	5,960
売掛金	231	247
商品及び製品	322	502
仕掛品	24	42
貯蔵品	14	12
未収入金	2,002	2,380
その他	877	622
貸倒引当金	△36	△46
流動資産合計	9,599	9,722
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,650	2,904
土地	262	262
その他(純額)	151	139
有形固定資産合計	3,064	3,306
無形固定資産		
のれん	2,877	2,801
ソフトウェア	216	200
その他	1,588	1,504
無形固定資産合計	4,682	4,506
投資その他の資産		
投資有価証券	75	75
繰延税金資産	332	252
敷金及び保証金	1,451	1,507
その他	70	77
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	1,930	1,913
固定資産合計	9,677	9,726
資産合計	19,277	19,448

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	151	248
未払金	1,534	1,725
1年内返済予定の長期借入金	363	363
未払法人税等	606	358
未払消費税等	361	426
前受金	3,897	3,604
賞与引当金	581	357
成績保証引当金	10	—
返品調整引当金	17	—
その他	409	654
流動負債合計	7,936	7,739
固定負債		
長期借入金	1,454	1,363
役員退職慰労引当金	69	70
退職給付に係る負債	107	113
資産除去債務	843	848
繰延税金負債	—	28
固定負債合計	2,476	2,424
負債合計	10,412	10,163
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,430	1,431
資本剰余金	1,420	1,421
利益剰余金	6,377	6,795
自己株式	△385	△385
株主資本合計	8,843	9,262
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	2	1
その他の包括利益累計額合計	2	1
新株予約権	11	17
非支配株主持分	7	3
純資産合計	8,864	9,285
負債純資産合計	19,277	19,448

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
売上高	3,233	7,537
売上原価	1,831	4,744
売上総利益	1,402	2,793
販売費及び一般管理費	658	1,523
営業利益	743	1,269
営業外収益		
受取利息	0	0
業務受託料	0	0
助成金収入	—	2
その他	0	2
営業外収益合計	1	6
営業外費用		
支払利息	0	1
支払手数料	1	1
その他	0	0
営業外費用合計	1	2
経常利益	742	1,272
税金等調整前四半期純利益	742	1,272
法人税、住民税及び事業税	255	344
法人税等調整額	△10	120
法人税等合計	245	464
四半期純利益	497	807
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△5	△3
親会社株主に帰属する四半期純利益	503	811

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	497	807
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	△0	△0
その他の包括利益合計	△0	△0
四半期包括利益	497	807
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	503	811
非支配株主に係る四半期包括利益	△5	△3

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準の適用)

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これによる主な影響として、奨学金返金制度について、変動対価に関する定めに従い、返金されると見込まれる額を除いた収益を授業実施時に認識する方法に変更しています。また、成績保証制度について、別個の履行義務として識別し、当該履行義務が充足された時点で収益を認識する方法に変更しています。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の損益及び利益剰余金期首残高に与える影響は軽微であります。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 2020年3月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自2020年10月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 財務諸表 (注3)
	森塾	湘南 ゼミナール	河合塾 マナビス	計				
売上高								
外部顧客への売上高	2,855	—	—	2,855	377	3,233	—	3,233
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	2,855	—	—	2,855	377	3,233	—	3,233
セグメント利益又は損失(△)	975	—	—	975	△12	962	△219	743

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「新規事業(研究開発費等を含む)」、「自立学習RED」、「そら塾」、教育関連サービス(フォレストシリーズの販売、「東京ダンスヴィレッジの運営」)、「プログラミング能力検定」等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△219百万円は、のれんの償却額△4百万円、各報告セグメントに配分されない全社費用△214百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメント及びその他に帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2021年10月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 財務諸表 (注3)
	森塾	湘南 ゼミナール	河合塾 マナビス	計				
売上高								
顧客との契約から生じる収益	3,785	2,466	823	7,075	462	7,537	—	7,537
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	3,785	2,466	823	7,075	462	7,537	—	7,537
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	13	13	△13	—
計	3,785	2,466	823	7,075	476	7,551	△13	7,537
セグメント利益又は損失(△)	1,233	564	128	1,925	△137	1,788	△518	1,269

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「新規事業(研究開発費等を含む)」、「自立学習RED」、「そら塾」、教育関連サービス(フォレストシリーズの販売、「東京ダンスヴィレッジの運営」)、「プログラミング能力検定」等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△518百万円には、のれんの償却額△76百万円、セグメント間消去△2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△440百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメント及びその他に帰属しない販売費および一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、前連結会計年度までは教育サービス事業の単一セグメントのため、セグメントの記載を省略しておりましたが、当第1四半期連結会計期間において、教育サービス事業における異なるビジネスモデルについて、経営管理を強化し、グループ事業の管理手法を見直したことに伴い、当第1四半期連結会計期間より「森塾」「湘南ゼミナール」及び「河合塾マナビス」の3つの報告セグメントに区分し、セグメントごとの概況を開示することといたしました。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

また、「注記事項（会計方針の変更）」に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。なお、当該変更による、事業セグメントの当第1四半期連結会計期間の損益に与える影響は軽微であります。